

遠絡統合療法 基礎医学セミナー

3-g 局所性症状と治療

1

局所性症状とは

2

局所症状について

- (1) 外傷などの明確な原因があること
- (2) 発症初期に局所に炎症所見があること
※ 炎症の四主徴：発赤、腫脹、発熱、疼痛
- (3) 症状の局在が移動しないこと
- (4) 多くの場合、一側性であること
※ 遠絡療法では、局所性症状に該当しない場合は、すべて中枢性症状と考える
※ 中枢性症状に対して局所治療を行っても効果はあるが、時間が経過すると症状が戻ることが多い

3

局所性症状(局所治療)の例

外傷　外傷後の痛み
 姿勢不良の肩こり
 寝違え
 ぎっくり腰
 Over use による筋肉痛
 手術後の瘢痕痛
 骨折の早期修復　等

4

治療効果を上げるために

- (1) 絶対に治るという意識で治療すること
- (2) 疼痛ラインをしっかり見極めること
※ 頸部、肩部はラインの判断が特に難しい
- (3) 治療ポイントを正確に押さええること
※ C-point は特に正確に取ること
- (4) 局所性か中枢性か見極めること
※ 中枢性症状に対して局所治療を行っても効果はあるが、時間が経過すると症状が戻ることが多い

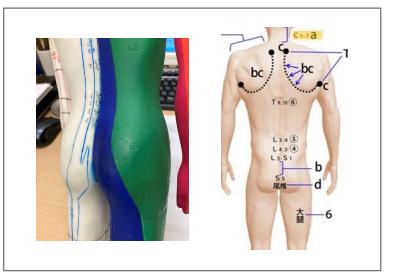
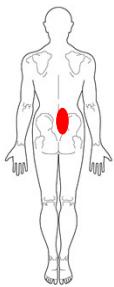
5

局所治療　練習

6

局部治療 練習問題

① 右腰臀部痛 ➡ rAyIII /4+b



7

局部治療 練習問題

処方式 rAyIII/4+b

治療式

連接(臟腑通治) ➡

相輔 ➡

増流処置 ➡

牽引瀉法 ➡

8

処方式 rAyIII/4+b

連接(臟腑通治)



相輔

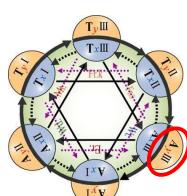


増流処置 ➡

牽引瀉法 ➡

臟腑通治

$x \leftrightarrow y$ 変換 $A \leftrightarrow T$ 変換
ラインNo.変換
 $y \geq x \quad I \geq II \geq III$



9